

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	川口市立川口駅前保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	森岡 清美	定員(利用人数)：	120 (123) 名
所在地：	〒 332-0015 埼玉県川口市川口1-1-1 キュポ・ラ8F	TEL	048-222-6011

③評価実施期間

平成28年8月30日（契約日）～平成29年3月31日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

○地域育児支援の拠点としての機能と役割が十分に発揮され、地域に定着した施設となっている
本園は駅前の8階にある園であり、子育て支援センターが併設され、一時保育も実施している。両事業とも専任の保育士を配置しており、一時保育は0歳児から未就学児まで受け入れている。子育て支援センターについては利用時間を延ばしたこともあり、年間延べ900名弱の利用がなされている。園庭開放時や子育て支援の水遊びの時には在園児とふれあう機会を持ったり、授乳やおむつ交換での利用や電話での育児相談なども行っている。また、「お日さまの会」と称して子育て支援センター担当の保育士が近隣の公園に出向いて遊んでいる親子と一緒に体操をしたり、紙芝居の読み聞かせをするなどの出前保育を実施している。その際に気になる親子についてはリーフレットなどの資料を配付して子育て支援センターへの来所を促したり、育児の相談に乗るなど、子育てへの不安解消などにつなげている。

○食育活動に積極的に取り組み、保護者にも取り組みの様子などを伝え、子どもたちの楽しい体験につなげている
食育活動の取り組みで、給食の野菜くずを利用した有機肥料作りの栽培活動が継続されている。園庭の一角に「ニコニコ畑」が作られ、子どもたちは実際に苗や種を買いに行い行って植えて育てている。夏野菜や冬野菜を収穫し給食に提供されるなど食に興味関心が持てるように工夫されている。栽培を通していろいろな鳥や虫等にも出会うなど普段得られない貴重な経験もしている。枝豆の栽培をきっかけに味噌づくりに挑戦し、来年度はジャガイモの栽培からポテトチップス作りが計画されている。「おこめができるまで」と題して、稲作における季節毎の体験を写真とコメントで紹介し、ホール入り口に掲示している。枯れた稲はしめ縄づくりに活用されるなど、稲作の工程を保護者にも発信して興味・関心が持てるように配慮している。食育教育プログラム（ベジコン）に登録するなど、食育に力を入れており、子どもたちの楽しい体験につなげている。

○子どもたちの安全・安心への様々な取り組みが行われ、配慮がなされている
子どもたちの安全・安心を第一に、日常の保育活動を進めており、緊急時対応マニュアル、緊急連絡フロー、アクシデント報告書・インシデントレポートなどが整備されている。今年度より本部に安全対策課が置かれ、安全へのより一層の取り組みが進められており、毎月の安全に関するニュースの発行や毎日2回の安全への情報発信などが行われ、各園での事故防止対策の検討や意識の向上につながっている。また、ヒヤリハットや事故などの集計分析が安全への配慮に活かされている。災害時への対応として毎月の避難訓練を実施し、職員の災害時における的確な対応に活かされるアクションカードを準備しており、カードの内容に沿って確実な行動ができるように工夫され、子どもたちの安全・安心につながっている。

◇特にコメントを要する点

○広い園庭や室内、設備などが整えられており、絵本やおもちゃなどの検討を進め、さらなる保育活動の向上につなげられたい

園庭を囲んで各クラスが配置されているので、すぐに園庭に出て戸外活動ができる利点がある。各クラスも広く子どもたちののびのびと個々の活動を楽しんでいる様子が窺える。ブロックや粘土製作等次の活動で遊びが中断されても、個々のトレーを使用しロッカーの上に片づけ遊びをまた続けられるなど遊びの継続が保証されている。また、道路や線路などが表示されたおもちゃ台が設置されたクラスもあり、いつ来ても誰でも遊ぶことができ継続した遊びの展開ができるように配慮されている。今後は、保育室の広さや人数に応じた絵本やおもちゃなどの数や種類などの工夫・検討も進められたい。子どもが好きなおもちゃを自由に出して遊ぶことのできるような収納の工夫やおもちゃなどの見せ方など、ここに来ると安心して遊ぶことができるような、年齢に合ったおもちゃの提供の仕方、必要性などを話し合うことによって、さらに遊びが充実し広がっていくことを期待したい。子どもが見たい絵本を選ぶ際に、背表紙だけではなかなか選びにくく、表紙が見え手に取って読みたくなるような絵本の並べ方や見せ方の配慮も望まれる。同時に子どもが絵本の世界に入って落ち着いて絵本を楽しめるような場所や椅子テーブル等の環境設定の工夫も期待したい。また、一時保育室や子育て支援センターなどの広いスペースもあることから、職員間で各部屋の有効活用の検討を行い、保育活動のさらなる向上に活かされたい。

○共通理解とする伝達の工夫と職員間における連携のさらなる強化・向上を期待したい

新任の職員の配置や人事異動もあり、各々が等しく保育業務を遂行できるよう様々なマニュアルを整備している。職員会議、アレルギー会議、ケース会議等会議開催後は記録に残し、参加できなかった職員についても必要事項が周知されるように工夫している。回覧後はそれぞれがチェックをして事務所に戻し園長が確認をしている。しかしながら、経験年数や思い込み等により理解の深さに差が生じてしまうことがあり、より丁寧で確実な伝達の方法を期待したい。園長の人事異動もあり、これまで職員間で大切に積み重ねてきたことをベースに新園長のもと、さらなる高みを目指した職員間の連携の強化・向上を期待したい。

○子どもたちの安全・安心の向上に向けたビルの保安体制の強化も検討されたい

子どもたちの安全・安心に向けた様々な取り組み・配慮がなされ、保護者も避難訓練などに参加するなど意識が高い。利用者調査では、ビルの保安体制への要望なども見られ、園へのアクセルとして使用されるエレベーターホールは誰でも入ることができる状況となっており、セキュリティ強化への意見が出されている。ビル管理者との協議を進め、さらなるセキュリティ向上に向けた対策の検討も望まれる。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

・環境設定については、昨年より年齢ごとに発達に合ったあそびに落ち着いて取り組めるように保育室内のコーナーを工夫しているが、今後も日々、試行錯誤を繰り返し、向上を目指していきたいと考えています。

・保護者との相互理解や職員間の情報の共有については、手紙やお知らせの貼り出しなどで情報の発信はしているが、確実に伝わっていないことが多く見られるため、一層の工夫が必要とされ、今後の大きな課題と認識しています。

・来年度は人との触れ合いをテーマにし、異年齢との関わり、保護者をはじめとする周りの大人との関わりを大切にして、多くの体験を通し、子どもの育ちを促していきたいと考えています。

・防犯対策については、ビル管理者との協議を進めるとともに園独自でできる防犯対策を進めていきたいと考えています。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり